

説教：義認：献身的な奉仕への導き

OIC のみなさん、おはようございます。

義認（義と認められること）とは、イエスの十字架上の死に基づいて、永遠の赦しを買うために、私たちはもはや罪がなく、義とされるという神の宣言です。私たちの義認は神の計画によるものです：「時が始まる前 - 時の中で - 時が過ぎ去った後」という聖書に啓示されている通りです。ここ数カ月、ローマ人への手紙のメッセージは、時が始まる前から、私たちクリスチャンは“選ばれた者”であることを確信させてくれます。ローマ書はまた、宇宙の主権王である神が、すべての人の救いをみことばに委ね、選ばれた者である教会の手に委ねられたと宣言しています。今日は、信仰によって義とされ、イエスに従うクリスチャンが献身的な奉仕に導かれることを、パウロがどのように描写しているのか、さらに詳しく見ていきましょう。

前回のローマ人への手紙のメッセージでは、聖書の中で「尊敬」から「神を怒らせることへの恐れ」まで、さまざまな意味を持つギリシャ語の「恐怖」という言葉を取り上げました。その「領域」あるいは「範囲」の真ん中には、「畏敬の念」という意味がある。畏敬の念とは、神の愛に驕ることなく、神の愛を感じ、信頼することを可能にする畏敬の念である。

（ローマ 11. 30）で学んだように、異邦人クリスチャンは、彼らを野生のオリーブの枝として信仰の霊的家族、すなわちアブラハムの信仰に接ぎ木してくださった神に畏敬の念を抱いて生きています。30 あなたがたは、かつては神に不従順でしたが、今は彼らの不従順によって憐れみを受けています。31 それと同じように、彼らも、今はあなたがたが受けた憐れみによって不従順になっていますが、それは、彼ら自身も今憐れみを受けるためなのです。

ユダヤ人が不従順であったために異邦人が受けた憐れみは、彼らに神への畏敬の念を抱かせます。神が彼らを自然のオリーブの木である父アブラハムの肉の家族の中に保たれたために、ユダヤ人クリスチャンが受けた憐れみは、彼らに、彼らのメシアであり、イスラエルのための犠牲の小羊であるイエスを信じさせた。両者とも神を畏敬して生きています！神が罪深い人類、ユダヤ人と異邦人に憐れみを示し、イエスを通して父アブラハムの霊的家族、神の家族に入ることを愛しておられるのは、素晴らしいことではないでしょうか！

私たちはこのような憐れみに畏敬の念を抱いているので、（ローマ人への手紙 11 章）の教えから、パウロは神を喜ばせる方法を示すことによって、この手紙の次の章を始めています。

ローマ書 12:1-2 を読みましょう。こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。2 あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにしておいて自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なこ

とであるかをわきまえるようになりなさい。

神は、私たち自身をいけにえとして神に捧げるよう求めておられるのです。私たちの神と御子イエスの犠牲を心から畏れるとき、私たちは、神がイエスの犠牲の足跡をたどるよう私たちを呼んでくださることを光栄に思います。イエスは私たちのために十字架上でご自分の命を犠牲にされた方です。

さて、生け贄について、神への最初の動物のいけにえを見てみましょう。これはアダムとエバの次男アベルによるものです。

(創世記 4. 3-4) 3 わたしに与えられた恵みによって、あなたがた一人一人に言います。自分を過大に評価してはなりません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の度合いに応じて慎み深く評価すべきです。 4 というのは、わたしたちの一つの体は多くの部分から成り立っていても、すべての部分が同じ働きをしていないように…

アベルから約 5,000 年後、ノアによって主に捧げられた動物の犠牲が記録されています。世界的な大洪水を生き延びたノアの箱舟は、山の上で休んでいたが、地面が乾いているのを見て、ノアはその箱舟を後にした。

創世記 8. 18-20 18 そこで、ノアは息子や妻や嫁と共に外へ出た。 19 獣、這うもの、鳥、地に群がるもの、それぞれすべて箱舟から出た。 20 ノアは主のために祭壇を築いた。そしてすべての清い家畜と清い鳥のうちから取り、焼き尽くす献げ物として祭壇の上にささげた。

ノアが、エデンの園以来の歴史を語り継いできた家系の中で神に忠実な男たちを覚えていた可能性は決して少なくないでしょう。もしそうなら、ノアはすぐにアベルに同調し、同じことをしました。神はノアの動物の犠牲を受け入れ、人類を存続させるためにノアに憐れみを与えたことを喜ばれました！

創世記 8 : 21 主は宥めの香りをかいで、御心に言われた。「人に対して大地を呪うことは二度とすまい。人が心に思うことは、幼いときから悪いのだ。わたしは、この度したように生き物をことごとく打つことは、二度とすまい。

パウロは、自分自身を含め、私たちクリスチャンがこの「生けるいけにえ」となる求めに従うことができるためには、「神の憐れみ」が必要であることを知っていました。ローマ書 12 章 1 節についてある偉大な聖書の先生と牧師が教えてくれたジョークがあります。「面白おかしく」聞こえますが、的を射ており、真剣に受け止めるべき意味があります。笑ってみてください。そして、私たちの素晴らしい救い主であり神に対する私たちの一貫性のない従順を表していることに気づいてください。ジョークや言葉遊びはこういうものです：「生けるいけにえの厄介なところは、祭壇から這い出てくることだ！」 まあ、私たちもそうですね。私たちはしばしば、自分の体を生きた聖なるいけにえとして捧げることも、イエスに従うことから逃れる簡単な方法を探してしまいます。しかし、神の憐れみによって、聖霊は私たちが祭壇に戻るのを助けてくださいます。

祭壇の上でこそ、私たちはイエスに近づき、イエスのために生きる喜びを見出すのです。

「ブルース牧師、神は私に生け贄になるよう求めておられるのですか？」

答えは「YES」です！ NASB 訳では、「これがあなたがたの霊的な礼拝である」と訳されていますが、「理にかなった」という言葉が、この聖句で私が YES と答えるための重要な強調点として欠落しています。

ギリシャ語原文（ローマ 12.1/MOUNCE）ギリシャ語原文（ローマ 12.1/MOUNCE）兄弟たち、神の憐れみによって、あなたがたのからだを、聖なる、神に受け入れられる生きたいけにえとしてささげられることを、私はあなたがたに訴えます。－これは、あなたがたのための理にかなった（logikos）礼拝行為です。この「logikos」というギリシャ語は英語の「logical」の語源である。どうですか？ 私たちが生けるいけにえであることは、私たちの魂を救うために御子をいけにえとしてお与えになった神からの理にかなったな要求であると考えなければならないのです。

要点①

あわれみ深い神に畏敬の念を抱いて生きることが、“献身的な奉仕”の基本です。この“畏敬の念”の生活は、イエスを通して自分自身を完全に神に捧げることを自由にしてしてくれるのです。

次にパウロはこう書いています。

ローマ 12：2 あなたがたはこの世に倣ってはなりません…

これは簡単なことのように聞こえますが、決して容易なことではありません。この世の支配者である悪魔は、私たちが神の子となり、よりイエスに似た者となるにつれて、私たちが今いる型に合わせたり、型にはめたりするように、クリスチャンに圧力をかけようとします。明らかな罪の誘惑は私たちに向けられるかもしれませんが、私たちを悪の手、世の圧力、サタンの邪悪な暗示にはまりやすくするのは、たいてい、栄光への忠実な歩みの日々の疲れなのです。1970年代、私たちクリスチャンは、ローマ 12.2...に基づいてこの短い歌を歌いました。

Don't let the world form you into its mold 世界があなたを型にはめてしまわないように。

Until you're tired and weary and about to lose hold 疲れて、疲れて、くじけそうになるまで。

It's your whole way of seeing things that needs changing round 物事の見方を丸ごと変える必要がある。

You need God's perspective down here on the ground. この地で私たちには神の視点が必要だ。

神の視点もしくは物事の見方については、次の節に書かれています。

ローマ 12：2 後半

むしろ、心を新たにしておいて自分を変えていただき…

神は私たちの心を新しくしてくださいませ！神が私たちの心を新たにしてくださいませるように促す私たちの活動には、イエスと二人きりで過ごす時間、日々の仕事をしながら祈り続けること、クリスチャンとの交わりなどがあります。このように、神は私たちへの憐れみを続けておられるのです。私たちを御手の中にとどめ、何度も何度も新しくしてくださいませという願いは、栄光が訪れるまで変わりません！

ローマ書 12：2 の続きに書かれているように遅かれ早かれ、挑戦する価値はあります。何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。

詳訳聖書には、この聖句に忠実な、増幅された力強い描写の言葉があります。

(ローマ 12.2/詳訳聖書)

あなたがたは、この世（の表面的な価値観や習慣）に合わせるのではなく、心の一新（神的な価値観や倫理的な態度に焦点を合わせる）によって、（霊的に成熟するにつれて）変えられ、徐々に変えられていきなさい、

そうすれば、神のご意志が何であるか、すなわち、善であり、受け入れられ、完全であること（あなたに対する神の計画と目的）を、あなたがた自身が証明することができます。

詳訳に含まれる説明 1)

この世[もはや表面的な価値観や習慣を持つもの]。地上のあらゆる社会には、神の御言葉と御霊に反する、表面的な価値観や習慣があり、それを普通と呼んでいる。

世界中のすべてのクリスチャンが、子供の頃に育った自分たちの文化がどれほど神に敵対しているかを知らうと苦闘しているように、私はこの罪について日本人を戒めたり説得したりすることは控えたいと思います。しかし、聖霊がこの文化の罪を、日本人、アメリカ人、ドイツ人、中国人、アフリカ人、そして今日世界中からこの地を訪れている多くの観光客に示してくださいませことを、私は切に祈ります。将来、私がアメリカ社会を批判していることにお気づきになると思うが、それは私が悪の人生のあらゆる領域において、アメリカ社会に適合して育ったからなのです！しかし、神は私たちに我々の文化、あるいはどんな文化であれ、それを上書きするために聖書を与えたのではない。もし私たちが聖書と聖霊の声を、私たちの人生における最終的かつ絶対的な権威としないなら、なぜサタンがしばしば私たちをマックドナルドのハンバーガーのように噛み砕くのか、不思議でなりません！

詳訳に含まれる説明 2)

霊的に成熟するにつれて]心の一新によって[神的価値観と倫理的態度に焦点を当てる]。

以前お話ししたように、成熟への道、つまりイエスにより近づいて歩むことを学ぶには、先に述べたような訓練が必要です。イエスと二人きりで過ごす時間、日々の仕事をしながら祈り続けること、クリスチャンとの交わりなどです。【神の価値観や倫理的な態度を重視する】ためには、祈りと決意が必要です。しかし、神の助けがあれば、私たちにはそれができるのです！パウロが

(ピリピ⁴.13) で言っているように、私を強くしてくださる方によって、私はどんなことでもできるのです。しかし、次の節にあるように、私たちが主の近くを歩むとき、地上にも報いがあるのです。

詳訳に含まれる説明 3)- それは、神のご意志が何であるか、すなわち、善であり、受け入れられ、完全であること（神のご計画と目的）を、あなたがたが（自分自身で）証明するためである。

自分の人生に対する神の意志を個人的な方法で知ることほど満足でき、安らかなことはありません！ これはまさに、地上における神の栄光を味わうものだ。それは常に善きものであり、受け入れられ、完全であり、あなたの人生に対する神の唯一無二の計画を明らかにします。このように聖書は、もし私たちが天における栄光を目指すなら、地上においても神の栄光を味わうことになると教えている。

要点②

生けるいけにえとして神に身をささげようとするクリスチャンは、神の臨在を増し加えられ、神の御心を真に知るといふ地上での栄光を受けます。コロサイ 1：10 あなたがたが主にふさわしく歩み、あらゆる点で主を喜ばせ、あらゆる良いわざにおいて実を結び、神を知る知識において増し加わるようになるためです。

次にパウロは、私たちがキリストのうちに人生を始めるには神の憐れみに頼り、それぞれに信仰の量りを与えることを思い起こさせています。

ローマ 12.3 わたしに与えられた恵みによって、あなたがた一人一人に言います。自分を過大に評価してはなりません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の度合いに応じて慎み深く評価すべきです。

時々、聖書は矛盾しているように思わせることがあります。しかし、神はそんなことはできません。パウロはクリスチャンたちに、神ご自身の御心を知るといふようにと勧めました。そして今、パウロはローマの信徒たちに、自信過剰になる前に、神がどのような賜物や召命を与えてくださったのか、自分たちが神から聞いたことを確認するようにと勧めています。パウロが、聖徒たち、すなわち、あなたがたの中のすべての人に、真の謙遜を正し、教える自信を与えるために、神から与えられた神の恵み、すなわち、報われぬ好意をどのように主張しているかに注目してください。この聖書の箇所は、若いクリスチャンには難しいです。しかし、キリストにおける成熟には、神が、神の御心に従って、もしかしたらまだあなたの意志ではないかもしれないが、あなたがキリストに確信を持つようにされることも含まれます。これは、クリスチャンの成熟の定義の本当に大きな部分です。私は水曜聖書研究会で、「自信に満ちたクリスチャンと神の特異な召命」というシリーズを教えています。神の御心と召命を熱心に学ぼうとする若いクリスチャンたちに恵まれているので、数カ月はこのシリーズを続けるつもりだ。自分の人生における神の御心を求め続けるのに、年を取りすぎるといふことはありません。

ローマ 12・3

自分を過大に評価してはなりません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の度合いに応じて慎み深く評価すべきです。

この箇所暗示されているのは、彼自身を低く見るなということでもあります！これは、御言葉と御霊から、神があなたにどのような信仰の量りを与えておられるかを聞くことによって可能になります。日々イエスを求めることは私たちの仕事であり、あなたの信仰を成長させ続けることは神の仕事です。

主イエスは弟子たちに次のように挑み、励まされました。

マタイ 17.20 イエスは言われた。「信仰が薄いからだ。はっきり言っておく。もし、からし種一粒ほどの信仰があれば、この山に向かって、『ここから、あそこに移れ』と命じても、そのとおりになる。あなたがたにできないことは何もない。」

イエスはまた、神がどのように私たちの信仰を成長させるかを語りました。私たちは自分の意志だけで信仰を成長させることはできません。イエスはこう言われたからです。

ルカ 13：20-21

20 また言われた。「神の国を何にたとえようか。 21 パン種に似ている。女がこれを取って三サトンの粉に混ぜると、やがて全体が膨れる。」

パンは種を入れることで“成長”します。このように、私たちの信仰は、「からし種のように大きくなる」ように成長するよう挑まれ、また、神は、私たちが信仰を保つにつれて、多くの期間、私たちの理解を超えて、しばしば成長させてくださいます。神が私たちに与えてくださった信仰は、小麦粉の中に蒔かれた種なのです。私たちがイエスと神の御心を信じ、求め続けるとき、神は私たちの信仰を成長させるために、ご自分の分担以上のことをしてくださるのです。パウロは、自分の人生に対する神のみこころを知りたいというクリスチャンの願いを、神が満たしてくださることを知っていました。クリスチャンの歩みの中で時が経つにつれて、私たち一人ひとり、（ローマ 12.3）の「量り」の詳細をよりよく知るようになるでしょう。神が各自に分け与えてくださった信仰の度合い（量り）に応じて慎み深く評価すべきです。

次にパウロは、地上におけるキリストの体である教会における「チームまたは一致した態度」を強調している。

ローマ 12.4-5 4 というのは、わたしたちの一つの体は多くの部分から成り立っていても、すべての部分が同じ働きをしていないように、 5 わたしたちも数は多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分なのです。

すべてのクリスチャンは、キリストにあってつながっているのです、今地上では共にキリストの体となっている。生まれ変わったクリスチャンだけが、この超自然的な「一致」を持つことができる。それは、自然に生まれた私たちの家族とも、私たちの地域社会とも、私たちの国家ともではなく、イエスを信じて超自然的に生まれ変わったキリストにある兄弟姉妹とだけなのです。

先ほどの詳訳聖書のローマ 12 : 4 ではこう書かれています。

ですから、私たちは、キリストにあって一つの体であり、一人一人が互いの一部分なのです（『あなたがたは、あらゆる点で主に喜ばれるように、主にふさわしく歩み、あらゆる善い行いにおいて実を結び、神を知る知識において増し加わるように』）。

人間の体が最高の機能を発揮するためにつながっているように、クリスチャンも互いに助け合っているのです。

どのような地域教会であっても、神の御国のために多くの実を結ぶためには、その地域教会を自分のホーム・チャーチとしてコミットしなければなりません。町中や世界中にいる多くのクリスチャンとの交わりでは、イエスのために実を結ぶ地域教会は生まれません。地域教会における交わりだけが、私たちが[互いに助け合っている]ことを各メンバーが自覚し、学ぶことによって、この協力の喜びと平安を生み出すのです。しかし、それはしばしば他者との衝突を意味します。私たちの地域教会で衝突する危険を冒さない限り、私たちはキリストの地域体として成長することはありません。クリスチャンとしての私たちの不完全さは、主イエスにとっては驚きではありません。OICの聖徒の皆さん、「鉄は鉄を研ぎ澄まし、人は人を研ぎ澄ます」（箴言 27. 17）ということをお忘れなくください。

要点③

生けるいけにえとして神に自らをささげているクリスチャンは、地域教会にいる他のクリスチャンとの衝突に対して、神から勇気を与えられる。ホーム・チャーチにいるキリストのからだの他のメンバーとの関わりを拒む人は、自分自身を神に生けるいけにえとして差し出したとは言えません。鉄は鉄によって研がれるとは、神がより成熟した賢いクリスチャンを造られるということです。

次にパウロはクリスチャンが神によってそれぞれが与えられた信仰を実践することについて述べています。

ローマ 12 : 6 わたしたちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っていますから、預言の賜物を受けていれば、信仰に応じて預言し・・・

今、私は、イエスが聖霊のバプテスマを授けてくださった経験のあるクリスチャンは、より超自然的な賜物に対してオープンであると確信しています。また、イエスの教会において、神は常に聖霊の実と聖霊の賜物の両方を望んでおられることを、私たち皆に思い起こさせたいのです。パウロは“賜物”について語る中で、これらは私たちに与えられた恵みによって異なることを明らかにしています。聖霊のバプテスマは、神の恩寵の第二の行為であり、救いを含む神からのすべての賜物と同様に、何ら自分で得るものではありません。しかし、すべての賜物は、超自然的なものであれ、私たちの考え方で理解できるものであれ、神からのものです。

パウロはここで神の賜物について列挙しています。

ローマ 12 : 6-8

6 預言の賜物を受けていれば、信仰に応じて預言し、 7 奉仕の賜物を受けていれば、奉仕に専念しなさい。また、教える人は教えに、 8 勧める人は勧めに精を出しなさい。施しをする人は惜しまず施し、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は快く行いなさい。

預言 ローマ 12:6 預言には、クリスチャンの口から個人的な理解を超えて発せられる神の超自然的なメッセージを信じる信仰が必要である。使徒ペテロは、旧約聖書の預言者たちに対して、次のように明言している

2 ペテロ 1. 20-21

20 何よりもまず心得てほしいのは、聖書の預言は何一つ、自分勝手に解釈すべきではないということです。 21 なぜなら、預言は、決して人間の意志に基づいて語られたのではなく、人々が聖霊に導かれて神からの言葉を語ったものだからです。

新約聖書の預言者たちも、この賜物に対して同じことを要求しています。新約聖書の預言は教会の礼拝でよく行われるようになりましたが、生涯の召命というよりは「賜物」としての意味合いが強かったのです。しかし、新約聖書に登場するクリスチャンの中には、預言者という称号を持つほど頻繁に預言者として召されている者もいます。

使徒 11. 27-28 27 そのころ、預言する人々がエルサレムからアンティオキアに下って来た。 28 その中の一人のアガボという者が立って、大飢饉が世界中に起こると「霊」によって予告したが、果たしてそれはクラウディウス帝の時に起こった。(※本物の預言者の言葉は遅かれ早かれ成就します。)

使徒 21. 8-9 8 翌日そこをたつてカイサリアに赴き、例の七人の一人である福音宣教者フィリポの家に行き、そこに泊まった。 9 この人には預言をする四人の未婚の娘がいた。

奉仕 ローマ 12. 7 - 奉仕とは語るものではなく、行うものなのです。私たち OIC は、この賜物を持つ多くのクリスチャンに恵まれている。見るたびに、色々な奉仕者がいて様々な方法で奉仕しています。

教える ローマ 12 : 7 - 教えることは話すことではなく、実行することです。OIC には熱心な教師がいる。牧師とブラッドさんだけではありません。他の人たちも OIC の子どもたちに聖書を忠実に教えています。

勧める ローマ 12. 8 - 聖書で「勧める」(exhort) とはどのような意味でしょうか? ギリシャ語新約聖書 (MOUNCE) には parakaleo という単語があり、NASB では exhort となっています。ギリシャ語からの聖書の意味は「呼びかける、呼びかける、懇願する、懇願する、励ます、説得する。」です。英語の MOUNCE 訳では、parakaleo の代わりに "encourage (励ます)" が使われています。使

徒パウロが聴衆への「勧め」の中で明らかにしている、罪から逃げろ、逃げろというような「説得する」という強い感情レベルは、一般的な英語表現では「encourage」には決して含まれません。

施し ローマ 12.8 - すべてのクリスチャンは、自分自身と経済的なものを教会に、ひいては神にささげるように召されています。しかし、“施しの賜物”は、地域教会という体におけるすべての個々の賜物のように、すばらしく、特別なものとして際立っています。

指導 ローマ 12.8 - 私たちは集会型の教会ですが、先週の年次総会（AGM）では、参加したメンバーたちの心を見せられました。彼らはOICを自分たちのものだと主張するように、大切にすることをしています。しかし同時に、OICと私たち全員が、教会の頭であるキリストに属しているのです。指導することは牧師である私の仕事であり、第二に、「熱心に」教会を指導し、教会員に「全てのクリスチャンの兄弟愛を否定する権威」を負わせることなく、「OIC評議会によって承認された」他の指導者が担っています。イエスによって教会に任命された最初の指導者、使徒ペテロはこう言っています。

I ペテロ 5.1-5 1 さて、わたしは長老の一人として、また、キリストの受難の証人、やがて現れる栄光にあずかる者として、あなたがたのうちの長老たちに勧めます。 2 あなたがたにゆだねられている、神の羊の群れを牧しなさい。強制されてではなく、神に従って、自ら進んで世話をしなさい。卑しい利得のためにはではなく献身的にしなさい。 3 ゆだねられている人々に対して、権威を振り回してもいけません。むしろ、群れの模範になりなさい。 4 そうすれば、大牧者がお見えになるとき、あなたがたはしばむことのない栄冠を受けることになります。 5 同じように、若い人たち、長老に従いなさい。皆互いに謙遜を身に着けなさい。なぜなら、「神は、高慢な者を敵とし、謙遜な者には恵みをお与えになる」からです。 ※箴言 3:34

神の群れの羊飼いで、羊飼い長であるイエスほど強く、しかも優しく語りかける羊飼いはいなかった。親愛なるOICの聖徒たち、あなた方の牧師と指導者たちは、私たちがそうなるように、あなた方の祈りを必要としています。実際にIペテロ 5.3には、こう書かれています。 ゆだねられている人々に対して、権威を振り回してもいけません。むしろ、群れの模範になりなさい。

私がすべての群れに説いているように、クリスチャン生活は難しいものではなく、“不可能”なのです。だからこそ、神は私たちに御霊そのものを与えてくださったのです。このことは、指導する者、教える者にとってはなおさらです。それがあなたの召命であるなら、それなしでは生きていけないのです！ 私たちのために祈ってください。私たち不完全な指導者は、最高指導者であるイエスから直接、指導する権威を与えられています。私たち一人ひとりを尊重する以上に、“私たちの召命”を尊重しないクリスチャンは、教会を分裂させます。注意：私たちの権威を尊重することは、私たちの言動のすべてに同意するということではありません。未熟なクリスチャンは「分裂」に傾くが、それはすぐに変えなければならない。未熟な者を知るには、特別な注意が必要でした。

ペテロは I ペテロ 5:5a でこう言っています。
同じように、若い人たち、長老に従いなさい。

さて、ここ（I ペテロ 5・5b）で、ペテロもパウロと同じように聖霊に満たされて聖書を書きみましたが、今日のメインテキストで使徒パウロの教えに戻っています。

ローマ 12.4-5 4 というのは、わたしたちの一つの体は多くの部分から成り立っていても、すべての部分が同じ働きをしていないように、5 わたしたちも数が多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分なのです。

そしてペテロはこう書きました。

皆互いに謙遜を身に着けなさい。なぜなら、「神は、高慢な者を敵とし、謙遜な者には恵みをお与えになる」からです。※箴言 3:34

慈善を行う ローマ 12.8 - 聖人であれ罪人であれ、他人と衝突したとき、私たちは憐れみを示すことを自分に強いなければならないかもしれません。そう、もし私たちがもっとイエスのようであれば、もっと簡単かもしれません。しかし、私たちの助け主である聖霊は、私たちが神の方法に従うよう促してください。旧約聖書の預言者ミカは、ユダヤの民に神からの次のようなメッセージを伝えました。

ミカ 6.8

人よ、何が善であり主が何を前にお求めておられるかは前にお告げられている。
正義を行い、慈しみを愛しへりくだって神と共に歩むこと、これである。

私たちの助け主は、みことばに従うことを強制します。これは良いことです。しかし、真剣に祈ることによって、私たちはミカのメッセージのように、憐れみを示すだけでなく、憐れみを愛するようになるのです。そうすれば、私たちの行動とともに朗らかさが御霊に流れるようになります。

神的な生き方に対する以下の戒めと訓戒は、あまり説明や釈義を必要としません。

9 愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れず、10 兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。11 怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。

「愛には偽りがあってはなりません」の「意味を引き出」してみようと思います。ギリシャ語新約聖書 (MOUNCE) の「偽りのない」の原文は "anypokritos" で、「本物 (real)」と訳されています。同じギリシア語辞典には、「偽りのない」、「本物の」、「心からの」というような意味があります。誰かの気持ちを傷つけないようにするために、私たちは「いいこと」を言わなければならないと思います。私は牧師として、このことに悩んでいます。というのも、私はしばしば人々に罪に対する責任を求めなければならないからです！ 私たちは皆、このような悩みを抱えています。アメリカ人はついつい鈍感になりすぎて、人を傷つけてしまうことがあります。日本人はその反対

です。日本人は他人を敬うことを教えられています。しかし、無感情なぶつきらぼうさも、罪を犯した人を敬うことも、神の御心ではないのです。ローマ 12.9 のこの単純な教えは、アメリカ人クリスチャンにとっても、日本人クリスチャンにとっても、多くの祈りを必要とします。しかし、地域教会におけるキリストのからだのメンバーという文脈は、私たち全員がエペソ 4.15-16 の使徒パウロの指示に従うことができるように、感情を傷つける危険を冒さなければならないことを意味しています。

エペソ 4:15-16

15 むしろ、愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、頭であるキリストに向かって成長していきます。16 キリストにより、体全体は、あらゆる節々が補い合うことによってしっかり組み合わされ、結び合わされて、おのおのの部分は分にに応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。

要点④

もし私たち OIC が、イエスにある家族としてより緊密な関係を築けば、お互いの不完全さを理解することができるでしょう。私たちは皆、この世で、そして教会で、どんな困難があっても、愛は決して滅びないということを忘れてはなりません。(コリントの信徒への手紙一 13・8 より)

ローマ 12.10-11 10 兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。11 怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。

兄弟愛は自然なものではありませんが、神は自らを生けるいけにえとして捧げたクリスチャンのうちに、それを実現されるのです。私の冒頭の発言とローマ書のメインテーマを復習すると、私たちの義認のために神を畏れ敬う生き方は、献身的な奉仕につながります。ホーム・チャーチで奉仕することで、私たちはクリスチャン同士のつながりを深めることができます。不完全な家族として、私たちは愛のうちに相違を解決することができます。ここで使徒パウロは、私たちがイエスに献身するだけでなく、兄弟愛をもって互いに献身することを明らかにしています。愛とは、他者を尊び、自分よりも他者を優先することです。勤勉とは、「私たちは教会をコンピューターゲームのように遊んでいるではありません。教会は、その壁の外にいる人々のために永遠を秘めています。これらの人々は、イエスのような愛をもってキリストの体を見る必要があります。神は、私たちが成熟するにつれて、私たち一人ひとりがどのように神に仕えるべきかを明らかにしてください。もしあなたがまだ知らないのなら、「それなら、あなたのホーム・チャーチを助けるために何か、何でもしてください！」

ローマ 12.12 希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。

私たちクリスチャンは、ユダヤ人であれ異邦人であれ、「選ばれし者」です。私たちの希望は、神の言葉という岩の上に置かれ、神が与えてくださった私たちの助け主である神の霊によって日々生かされています。私たちの希望とは、私たちはもはや罪がなく、イエスの十字架上の死に基づいて義とされ、私たちの永遠の赦しを買い取るという神の宣言。私たちの希望とは、神の賜物で

ある救いのための信仰であり、イエスに会うときに見ることができるようになります。これらの真理を覚えているならば、私たちは苦難の中でも忍耐し、成熟するにつれて得られる確信は、私たちが傲慢になったり、高慢になったりすることなく、祈りに献身するようになるのです。私たちがイエスとともに栄光に向かって歩むとき、このすべてが私たちの中に形成されていき、私たちは、ホーム・チャーチで神と神の民に仕えるという献身的な奉仕へと導かれていくのです。OICでクリスチャンとつながる前に、まずイエス・キリストとつながる必要があります。使徒ペテロの「福音の種を蒔く信仰」の一節にあるように。

I ペテロ 3・18a

18 キリストも、罪のためにただ一度苦しみました。正しい方が、正しくない者たちのために苦しまれたのです。あなたがたを神のもとへ導くためです。

「あなたがたを」というのはあなたのことです！ アレルギーの季節が過ぎたら、いつか皆さんに、特にここにいるまだキリストに生まれ変わっていない人のために歌いたい、罪人をイエスに呼び寄せる素晴らしい歌がある。この歌の言葉が、神の家族の“外側”にいる皆さんの心を動かし、イエスのもとに来るよう祈ります。どうか今日、イエスのもとに来てください！ イエスはあなたの心の扉をノックしておられます！

It is no secret what God can do	神に何ができるかは秘密ではない
What He's done for others	他者にしてくださったこと
He'll do for you	あなたのためにしてくださる
With arms wide open	両手を広げて
He'll pardon you	赦してくださる
It is no Secret, What God can do.	神にできることは秘密ではない

祈りましょう。

引用

AMP - Amplified Bible, Copyright © 1954, 1958, 1962, 1964, 1965, 1987 by The Lockman Foundation, La Habra, CA 90631. All rights reserved.

KJ21 - 21st Century King James Version, Copyright © 1994 by Deuel Enterprises, Inc.

NASB - New American Standard Bible®, Copyright © 1960, 1971, 1977, 1995, 2020 by The Lockman Foundation. All rights reserved.